

49年白門会結成!!



(題字・葛西 聖司)

設立総会・記念パーティーを開催

「49年白門会」は本年7月2日(日)多数のご来賓、同期会結成に賛同された皆様にご出席頂き、無事設立総会を終了、中央大学学員会の年次支部として結成されました。

思えば我々が中央大学を卒業以来26年が経過しております。駿河台の校舎は多摩へ移転し、大学も大きく変わりました。駿河台校舎は、確かに緑も無く手狭で、生協の食堂も現在の多摩校舎に比べれば貧弱でしたが、御茶ノ水は伝統的な全国区の「学生街」として中大生の実感がありました。今となれば、ロックアウトや3年の学年末試験がレポートに切り替わったことも懐かしい思い出となっております。フォークソングやグループサウンズが全盛を極め、皆様が青春のエネルギーを大いに燃



山崎厚太
(経済)

◆初代会長に山崎厚太氏を選出
同時代を共にした集まり!!

中央大学を卒業して早、四分の一世紀が過ぎてしまいました。26年目にして同期会を設立することになり、1年間の準備を経て7月2日に設立総会を開きました。この同期会をこれからは大いに利用して、大切な、楽しい所にしていきましょう。

焼させていたと思います。

昨年4月、準備会の初めての集まりの時、お互い皆知らない者同士の集まりでした。しかしながら、生協や地下に有った床屋の事、近くの溜まり場の喫茶店の話などに、正に同時代に中央大学で過ごした者には分からない共通点が沢山有り、結成準備も順調に進みました。

学員会には、各地区に地域・職域支部が有りますが、年次支部は、同時代を一緒に過ごした者同士の集まりとなり、特に共通した喜び、感動、悩みを持っていると思いますし、堅苦しさも有りません。私たちの同期は6千人強の方達がおり、今回の同期会結成に御賛同いただいた方も、北海道から九州まで各地にいらっしやいます。毎年のホームカミングデーや観桜会には会合を開き、皆様が集まり易くしようと思っております。

支部は今出来たばかりですが、同期一同協力し、母校中央大学の発展と、皆様方の一層強い絆を広げていきたいと思っております。皆様の絶大なご支援、協力をお願い致します。

【中央大学49年白門会設立総会】

平成12年7月2日(日)、御茶ノ水の中央大学駿河台記念館に於いて、『49年白門会』の設立総会が60名の出席のもと開かれた。梅雨の晴れ間が広がる暑い午後、総会は緊張の中、厳かに進行し、4つの議案は滞りなく可決された。ここに『49年白門会』が設立された。

第1号議案

49年白門会会則案について

略

第2号議案

「49年白門会」役員
の選任について

支部長
(会長)・・・山崎厚太(経済)
副支部長
(副会長)・・・山崎司平(法)
葛西聖司(法)
宮川保(経済)
山田正(理工)
渡邊秀和(文)

幹事長
(事務局次長)・・・中島章夫(経済)
副幹事長
(事務局次長)・・・荒木康裕(法)
小林次男(商)

(会計部)・・・後藤徳彌(経済)
(事業部)・・・増田勝美(法)
(広報部)・・・大竹力三(法)
会計監事・・・吉江信博(商)
木村真(法)
板倉英行(商)

第3号議案

2000年度事業
計画案について

会員相互の親睦・交流、会の組織強化、中央大学および学員会他支部との交流を図るため、次の活動を行う。

1. 親睦会・懇親会等の開催と各種同好会活動の実施
2. 会員名簿および会報の発行
3. 新規会員の勧誘
4. 中央大学学員会他支部との交流

第4号議案

2000年度予算案について

〈収入の部〉

(単位 千円)

費目	予算額	摘要
会費収入	1,000	入会金・年会費(1万円×80人、4千円×50人)
懇親会収入	400	総会の懇親会参加費
雑収入	10	学員会からの補助金残金
合計	1,410	

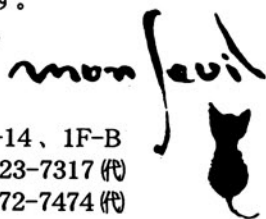
〈支出の部〉

費目	予算額	摘要
通信費	200	郵便等の連絡費
事業費	400	会報発行費用、他事業活動費補助
事務費	100	事務用品、会合の際の賃借・交通費
懇親会費	400	総会の懇親会費用(収入対応)
交際接待費	100	祝金、学員時報賛助広告費
雑費	100	
予備費	110	次年度以降に繰り越すべき会費一括納入分を含む
合計	1,410	

創業23年、“動物のもつやさしさ”をテーマに、オリジナルのぬいぐるみ・雑貨を作り続けています。お客さまのお手元に届いた商品が、いつまでも御愛用いただける様、ていねいな物作りを心がけています。特別注文製品もお受けいたします。

株式会社モン・スイユ

所在地：東京都品川区北品川5-7-14、1F-B
TEL：東京営業所 03-5423-7317(代)
関西流通センター 0774-72-7474(代)



永六輔さんも「待ってましたア」とご推薦

名セリフの力

—日本語をきたえる76のことば—

NHKエグゼクティブ・アナウンサー 葛西聖司 著

「知らざア言って聞かせやしょう」「お若えの、お待ちなせえ」……誰でも知っている名セリフから、日本語の豊かな表現力を学び、会話力を強くする。

四六判上製 278頁 定価1780円(税込)

展望社 東京都文京区小石川3-1-7 ☎03-3814-1997 FAX 03-3814-3063

49年白門会結成を祝して

学員会貢献に期待する!!



学員会会長
大西 保

域支部が48支部、札幌支部や福岡支部のように地域支部が102支部あり、合計188支部で、全国各地で学員の方が活躍・活動しておられます。私も学員会の会長として、全国至る所いろいろな支部を回り、学員の方々に貴重なご意見やご協力をいただいております。

今日は49年白門会の設立誠におめでとございませう。今日は特に気温も30度を越す暑い最中で49年白門会がスタートされ、いつまでもアツイ思い出として頭の中に残ることでしよう。先程らい司会をしております葛西さんは、ホームカミングデーでも名司会ぶりを披露させていただいておりますが、まさか49年卒業生とは思いませんでした。また、学員会事務局にも49年卒業生がおり、本日お集まりの49年白門会の皆様にはなにかと学員会としていろいろお世話をお願いいただき、ここに感謝を申し上げます。

さて、ご承知のとおり中央大学では卒業生を学員と称しております。開学以来卒業生は44万人にのぼりますが、学員会では母校中央大学の興隆と発展に寄与することを目的に、今日まで活動して参りました。すでに年次支部は38支部あり、皆様の49年白門会は、39番目の年次支部になります。年次支部のほかに現在、職

私は土・日は伊豆でデコポン(相模)を栽培しており、今朝伊豆から上京した次第です。今日は本日に暑い日で駿河台記念館に来るまで汗をたくさんかいてしまいました。こんな暑い日に49年の卒業生はよくお集まりになっており、設立総会を盛り上げ、49年白門会を築いていこうとする姿勢に学員会会長としては、誠に頼もしく嬉しい限りです。

中央大学としては、卒業生が戻ってくることを心待ちにしています。ところが多くの方々には大学を卒業すると、なかなか母校を振り向いてくれない傾向にあります。卒業生をなんとか中央大学に振り向けさせようという高い通信代を支払い、学員会加入を呼び掛けているのですが、高い通信代をかけた割には、会員になる卒業生が少ないのが現状です。

お友達に、また学員会に未加入の方がいらっしやいましたら、皆様の掛け声とご協力で、是非ご入会頂きますことをお願い致します。

会を継続することが大事!!



中央大学常任理事
三宅邦彦

本日、49年白門会の設立総会が多数のご来賓、同期生のご参加の下に盛大に開催されましたことを心からお祝い申し上げます。

また、産学協同研究のための研究開発機構を設置し、研究成果の向上も図っておりますので、是非マルチメディアキャンパスにお立ち下さいます。

私も10年ほど前に、白門三五会の設立準備委員の同志として奔走した記憶があります。準備委員の方々の母校の躍進と発展を願い、自らのボランティア精神によって、本日の総会設立パーティーが開催されたわけであり、その意味におきましても改めて心から敬意を表する次第です。

さて、大事なことは設立後継続することにあります。同期会の「志」を継続し、49年白門会が益々発展することをお祈り致します。

幸い、49年の幹事の中には中央大学の職員もおります。職員は学校の仕事だけをやるのではなく、大学と卒業生との懸け橋になっていただき

たいと思います。ここに集まりの49年卒業生の皆様は、どうか大学職員を通して、学員会としての有効なつながりを保ち、これからの会の運営や交流を重ねていって下さることを切に要望致します。

中央大学の現状ですが、皆様にお知らせすることが二つあります。

まず一つ目は、この4月に社会人を中心とした大学院を市ヶ谷キャンパスに開校いたしました。今、大学院の教育の充実が社会に果たす役割として大きくクローズアップされ、本学も社会人教育を主として約400名が受講しております。

また、産学協同研究のための研究開発機構を設置し、研究成果の向上も図っておりますので、是非マルチメディアキャンパスにお立ち下さいます。

二つ目は、中央大学が21世紀につながるために何を努力しているかということですが、本学は、高度専門職業人の養成に特化した大学院作りのためロースクール及びアカウンティングスクールの開設に向けて懸命な努力をしております。

卒業生の皆様が築かれた伝統と栄光の中央大学を維持するため、今現在中央大学が一丸となって努力していることを申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

最後になりましたが、49年白門会の継続性発展と、本日この会にご参加されました皆様の隆盛を祈願致します。

主要取扱申請書類等

- ◇ 建設業・工事入札・産廃業・宅建業
- ◇ 風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
- ◇ 外国人在留手続・帰化・国際結婚
- ◇ 遺言書作成・遺産分割協議書作成

法律相談 申請書類作成 提出手続代行
行政書士 増田勝美 電話 03-3713-2299

山崎司平法律事務所

第二東京弁護士会所属
日本弁護士連合会常務理事
日本弁護士国民年金基金常務理事
中大法学部非常勤講師

辯護士 山崎 司 平

東京都中央区銀座3丁目10番9号 共同ビル6階
電話 03-3546-0281 FAX 03-3546-0280



全国からの懐かしい顔で賑わう受付。

20世紀最後の 7月2日!!

新しい思い出の日となる平成12年7月2日は、今年の猛暑を予感させる暑い一日から始まった。母校中央大学を昭和49年に卒業した同期が、この日、懐かしの地・御茶ノ水に集まった。

この日の御茶ノ水は、焼き付けるような夏の陽射しと、沸き上がるアスファルトからの輻射熱とで、行き交う人々を押し込めるような、梅雨時とは思えない真夏のような天気であった。

御茶ノ水駅前には、随分と街の感じは変わってしまったが、どこことなく昔の面影を感じさせて、私たちを迎えてくれた。

建物は変わつたが、古いままの道筋に沿って新しい姿に変わつた街並の中をゆつくりと歩きながら、中央

盛大に華やかに 49年白門会設立総会 記念パーティー開催

2000年の節目に、昭和49年卒業の同期会「49年白門会」が発足した。実に、卒業して26年振りの再会に、期待と懐かしさが、思い出の地「御茶ノ水」に集まった。会場は学生時代にタイムスリップした感じがした。

大学駿河台記念館へと向かった。

この一年、準備委員の地道な献身と熱意が、全国各地に散らばる六十余名の同期をこの御茶ノ水に集めた。

なぜ今年がその記念すべき第一歩となったのか？ 西暦二〇〇〇年という今世紀最後の年という事も、印象深い事である。26年の長い時間を一瞬のうちに打ち消す設立総会が、今まさに始まろうとしている。

定刻の午後3時を前に、続々と駿河台記念館の510号室に同期が集まってきた。恐る恐る受付をする人、

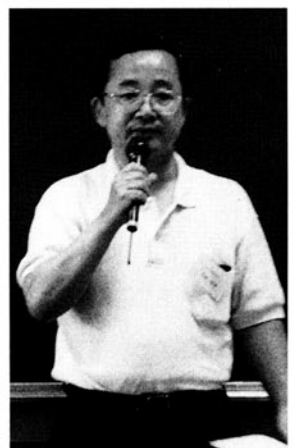


総会の議事は、緊張の中で厳かに進行した。

事業計画案を説明する増田さん。



予算案を説明する後藤さん。



瞬にして相手を判別して、懐かしさの余り絶句する人等、受付の場所からドラマが始まった。

定刻の午後3時

司会を務める後藤徳彌さん（経済）が緊張の第一声を発し、記念すべき総会の幕が切つて落とされた。設立準備委員会代表の山崎厚太さん（経済）が、この日を迎えるまでの1年間の経過を説明。総会会場を埋めた同期は、設立準備委員メンバーの1年間に渡る熱意とその苦労に対し、惜しまぬ拍手で応えた。

次に議長を選び議題に入った。

議長には増田勝美さん（法）が選任され4つの議案の議事に入った。

第1号議案の「49年白門会会則案」について、山崎厚太さんが説明、第2号議案の「49年白門会役員選任」について、中島章夫さん（経済）が説明、第3号議案の「2000年度事業計画案」について増田勝美さんが説明、第4号議案の「2000年度予算案」について、後藤徳彌さんが説明した。それぞれの議案に対して会場から

は、「異議なし」の声が出て拍手で可決された。

会場から「女性会員を多く集めて欲しい」という意見も出て緊張がほぐれる一幕も。その後選任された役員が前に出て一言ずつ挨拶をした。

総会で選任された初代会長の山崎厚太さんが壇上に立ち、49年白門会の設立が宣言され、緊張感がまた残る雰囲気の中、集まった同期には一様に安堵の表情が深い、打ち解けた和やかな空気が会場を埋めた。そして、総会参加者全員による記念撮影が行われた。一人一人その顔はすでに学生時代の顔に戻っていたに違いない。
（小林 隆恵）



選任された役員が抱負を一言ずつ披露。



飲んで、食べて、喋っての2時間だった。

26年前にタイムスリップ!!

設立記念パーティーは会場を670号室に移し午後4時にスタートした。司会はNHKアナウンサーとして活躍している葛西聖司さん(法)が買って出てくれた。プロの司会はさすが、という感嘆の声が聞かれる中、初代会長の山崎さんの開会の挨拶に始まり、来賓としてお越し頂いた中央大学学員会会長の大西保氏、中央大学常任理事の三宅邦彦氏からお祝いのお言葉を頂いた。引き続き

白門一八会支部長の飯島郁太郎氏の乾杯の音頭で歓談に入りました。

体育の授業はどこで何をしたとか、3年次の学年末試験がロックアウトの為にレポート提出に切り換えられた事、在学中は一度も白門祭が行われなかった事等、テーブルを囲み、話に熱中し、食べる事も忘れ、26年の年月をあつという間に埋めてしまいました。年齢は50歳前後を中心に26年前の面影をその顔や仕草に残し、26年前の自分と友を談笑の中に探し出す姿が各テーブルに見られました。

一段落したところで



司会はこの人、葛西アナウンサー

ビンゴゲームが行われました。豪華賞品や会員から提供された電化製品、ゴルフボール等を目指し、洒脱で軽妙な葛西さんの司会で進むが、なかなか「ビンゴ」が出ず、リーチの人が増えるばかり。会場の熱気が伝わったのか、突然猛烈な雷雨。梅雨も今日で明けるかのような雷雨でした。これが本当の水入りだったのか、最初の「ビンゴ」が出ました。佐藤隆さん(経済)で、1等賞の電気製品をゲットしたのです。その後は続々とビンゴが出て、それぞれ一言ずつの挨拶がありました。

26年ぶりの校歌

記念パーティーには総勢65名の同期生が集まりましたが、この日、一番遠方から参加されたのは、香川県の善通寺市から駆け付けてくれた高嶋重利さん(法)でした。司会の葛西さんから紹介され、出席者から熱い拍手を受けました。

パーティーも終わりに近付いた頃板倉英行さん(商)の指導で、「草のみ

どりに風薫る「で始まる」校歌」と「応援歌」を全員で歌いました。26年振りに歌う人もいて、同期の中には感無量といった感じの人もおり、26年前に確かに同じ時代を共有したという一体感が感じられた瞬間でした。

出席者の中に学生時代応援部だった松村年郎さん(経済)の姿があり学生時代は近寄りたかったが、今は「同期」という事で、何の遠慮も無く付き合えるという、当たり前の事が分かったのも、同期会って良いもんだな、という一つの発見でした。せっかくの応援団です。松村さんには締めとして、エールをやって頂きました。

最後に副会長で弁護士として活躍している山崎司平さん(法)から閉会の挨拶があり2時間のパーティーはお開きになりました。凄かった雷雨も上がり、少し爽や

かに感じる御茶ノ水駅前の、居酒屋「藩」で二次会を行いました。まだまだ話は尽きない半数以上の同期が出席しました。今日が日曜なので、明日の仕事のため、残念ながら参加しなかった人もいらっしゃいました。

この「49年白門会」の同期は、飲んべいが多く楽しい会です。お酒の好きな人は勿論、同じ時代の空気を共に吸った同期の皆さん、是非入会して催しに参加してください。これからの人生が充実する場になるはずですから。(村岡 潤)



パーティーの締めは応援団の松村さん!



パーティーの始まりは少し緊張気味だったが...



ビンゴゲームで賞品をゲットした、幸運な同期。



二次回は別れ難く、9時過ぎまで続いた。

26年ぶり、全国からお久しぶり!

26年という年月は、人生を変える時間としては長いのか、短いのか? 卒業して全国に散らばった同期生ですが、26年前に共有した4年間の、あの輝いていた時間は同じだと思います。懐かしい人々からメッセージが届きました。

女性の参加を まっています!!



石見望
(理工)
東京都・江東区

大学を卒業して26年。その間、就職、結婚、出産と目まぐるしい日々を送り、中央大学の存在は頭の片隅にしかありませんでした。

それが昨年の第10回ホームカミンググデーに参加したのをきっかけに、49年同期会設立の幹事を引き受けることになりました。多摩校舎に行っただのはこの時が初めてでしたが、主人が以前にここで教鞭をとっていたので、いろいろ話は聞いていました。

立派な校舎、図書館、食堂、そしてお茶室や春の桜並木と、話を聞く度に夢は大きく膨らんでおりました。実際に行ってみると、確かに私の学んでいた時よりも立派なキャンパスで、自然に恵まれた素晴らしい環境でしたが、東京の西部に住んでいる私には、とても遠い道程でした。私

の学生時代はキャンパスは狭かったけれど、都心なりの活気があったように思います。でも、あの広いキャンパスと素晴らしい設備で学べる今の学生は、とても幸せだと思います。

卒業して26年、これからまた26年たった自分を想像すると恐ろしい気もしますが、一度学生時代の気分に戻ってみるのも良いものです。家庭生活にもホッと一息付いた所で、女性の皆様と一緒に学生時代に帰るのはいかがですか。種々、多彩な出会いが待っているかも知れない、この49年白門会を利用しませんか?

母校に支えられて



小沢啓子
(法)
神奈川県・横浜市

卒業して26年、様々な事があり、その都度母校に支えられていると感じてきました。

クラスやゼミの友人達と専門書を囲んで話し合った大学時代は、女性

として差別されることもなく、充実した4年間でした。就職で壁にぶつかりました。均等法ができる前の女子学生の就職はとても厳しかった。それで試験を受け、地方公務員になりました。平等なはずの公務員の世界でも、女性に任せてもらえない仕事が多く、現実の厳しさを知らされました。20代半ばで結婚しても、30代前半まで子供を持たず、残業もし、やりがいのある仕事に就けるようになったと思ったら、出産で体調を崩し退職。育児に生きがいもありましたが、仕事がなくなくなったという空虚感も心の中になりました。日々思い悩んでいた時、今になんとかなんとプラス思考ができたのは、母校の存在です。若い時代に学習した経験が自分を支えてくれました。その後、簿記の勉強をし、今の会社に短時間でも勤め始め、少しでも自分の収入が得られた時の喜びは大きかったです。

また、仕事の役に立つようにと始めた社会保険労務士試験に数回不合格になっても諦めず、資格取得できたのも、母校の支えがあったからです。これからは母校が限りなく発展されることをお祈り致します。

われらの時代



葛西聖司
(法)
東京都・練馬区

山田五十鈴さんに長谷川一夫の思い出を聞かされたお会いした。

「あの方は、お酒一滴も飲めないで、奥様とわたしが一杯やっていると、凄く不機嫌でね。それがかわいいの」一枚目の素顔が目にかぶ。

「相合傘は体の関係がある場合、上半身を離して腰をつけるのだと教えてくれました」舞台化粧の眉を美しく描きながらの話は尽きない。

その夜、若い男女と食事をした。聞いたばかりの話を着ると思い、山田五十鈴さんを知っているよねと尋ねたが、ふたりとも首を傾げた。幻の映画女優ではない。劇場を満席にする現役、超一級の女優をふたりは知らない。では長谷川一夫は? 通産省のエリート男性が名前だけは知っていた。かつて山本富子を若いテレビタレントが知らなかったつけ。

49年白門会で ふりかえる



高嶋重利
(法)
香川県・善通寺市

ホームカミンググデーを機に、中央大学駿河台記念館に於いて、49年白門会設立総会が開催され出席した。卒業して26年。我が母校の懐かしい思い出と同期とあいまって、和氣藹藹とした記念パーティーは歓談の輪が広がり、あ、中央の若き日に戻り、中央で学んだ時の先生方、同輩との出会い、この時代の様々な思い出がよみがえり、熱きものを感じた。

東京で学ぶ習熟をしながら司法試験の勉強をしていたが、病気でやむなく断念した事。中大付属高等学校で教育実習をした時、まきびぎした男

子校で授業は緊張した事。お世話になった先生方、教育実習生との出会い、いろいろな場所での会合に出席する度に、出会いの輪が広がり、あらゆる分野で活躍されている方々に接し、潤いあるものになった。

駿河台校舎閉校祭に参加し神田の街を提灯行列した事。多摩校舎落成祝賀会と創立百周年記念式典に参加させていただき、丘に目映き白門を眼前にし、観覧会に参加したり、会合に出席して広大なキャンパスを実感した。更に都心市ヶ谷キャンパスに直結し、伸展する母校。

中央大学で学んだ事と出会いが起点となって、思い出と出会いは遠くに近いものとなりました。

北海道からメルハバ



続橋真一
(商)
北海道・函館市

まるで私の人生「さけ」の一生と似ています。生まれ故郷の北海道へ戻って早8年、今は夜景で有名な函館に住んでいます。思えばあの大学紛争当時、毎夜横浜の職場から御茶ノ水までよく通ったものです。

あれから30年近く年を重ねたわけですが、その間に住家もずいぶんと変わりました。アジア大陸の西の果て、スモッグのひどさに苦しめられ

た異国の地での3年間もありました。東京に戻り、何でも揃う日本にホッと、何て素晴らしい国なんだと感激したことを思い出します。しかし、バブル崩壊の兆し切りから東京もなんとなく元気がなくなってきた。マスコミは地方への回帰を書き立てる。

都会暮らし25年からの転換は一大決心だったが、人間という動物は、その土地土地の良さを見つけて順応してしまう。ゴキブリは居ないし、蚊も飛ばない。真夏の銭湯から出た時の、あのひんやりした自然の涼風鼻翼も真つ白、テニススクールは1クラス6名、スポーツクラブも混雑しない、市民ランニング大会は定員オーバーなどありえない。

これからは田舎暮らしを満喫したい。しかし、元東京人として都会には元氣を出してもらいたい。

ロマンを求めて二十六年



松村年郎
(経済)
茨城県・水戸市

早いもので、卒業は昨日の様に思われる。当時の事を振り返ってみると、学生運動をやっていたN君、空手部にいたH君は地上げ屋をやっていたが、その後どんな人生を歩んでいるのだろうか？ 私自身は、応援部を4年間続けた自信が、社会に出

て、自信を持って生きてこれたと誇えている。

現在、保険会社に勤務しているが、保険会社の厳しさは、応援部の時の厳しさに比べれば何でもないと自分を奮い立たせ、毎月数字に追われ、ある時は脅され、ある時はお客の前で土下座させられもしたが、がむしやりに生きてきた。気が付くと勤続25年も過ぎ、我なりに精一杯頑張ってきたと自負している。その間には、結婚して子供二人にも恵まれ、米國旅行、ヨーロッパ旅行と楽しい事も多々あった。

私は子供の頃から、自分の銅像を作り、記念館を出身地である山口市に建てたいと考えている。そのためにも自分に恥じない生き方を全うし、残された二万日の人生を精一杯生きぬくのが、私の男のロマンである。

主人と夫君(ふくん)



山崎司平
(法)
東京都・中野区

長女が通う大学のPTAのような団体の関係で、平成一〇年夏に女性教授にインタビューをした。既婚者に見えたので配偶者の職業を聞こうと思ったが、学科主任として大学の主要な位置を占めている人に対して「主人」と話しかけることには、躊躇いを感じざるを得なかった。

日弁連は、大きな司法を実現する

ための「百万人署名運動」を展開していたが、私が所属する弁護士会で世話人慰労会を開いた。署名運動の事務局長の妻は弁護士だが、「ご主人が頑張ったから」と誰かがお世辞を言ったところ、すかさず「この家庭では、この人が主人だよっ」との野次がとんで爆笑の渦となった。

ご主人・旦那様・奥様・女房……これらには「男が夫婦の中心であり、女は男の付属に過ぎない」との考え方が潜んでいる。そのためか、特に就職している女性に対して「ご主人」という言葉を使うことには、抵抗を感じるを得ない。私達が子どもの頃には「妻とや夫君」という言葉が使われていたことがある。今の時代に、妻・夫や「夫君」という言葉を使うことをお勧めしたい。夫婦間においても一人の人間としての価値が重要であることを意識させられる、副次的な効果が見れる筈だ。男女共に同社会を迎え、昔の用語が新しい生命を持ったように思う昨今である。

対馬よいとこ一度はおいで!



渡邊秀和
(文)
長崎県・上県郡

学生時代は語学の勉強に明け暮れ、フランス語には自信を持っていた。フランス語で受験できる就職試験は

ないかと探していたら、自衛隊幹部候補生試験が英、独、仏語のうちから選択して受験でき、受けたら合格した。ちなみにフランス語の試験はえらく簡単で、百点間違いなしと感じた。自衛隊とは縁もゆかりもなかったが、親戚に旧海軍の大佐がいたりして、特別違和感は無かったので、自衛隊でどんなところ? という半ば物見遊山の軽い気持ちで入隊してから、すでに26年間過ぎた。

今年3月からは都落ちして、航空自衛隊に28ヵ所所有のレーダー基地の司令として、韓国との国境、対馬の北辺で勤務している。さすがに僻地だけあって自然には恵まれ、不便だが都会とは違った潤いのある生活をしている。

6年後には定年となるが、私としては、単身赴任で迷惑をかけている妻に感謝する意味で、のんびりとした世界旅行を楽しみにしている。今は、流行の熟年離婚をされないうように妻の心をつなぐことが課題である。

離島・対馬は良い所です。ぜひ足を伸ばしてみてください。レーダー基地にも案内しますよ。



イラスト/ビッグ錠

準備委員会 だより

7名からスタートした準備委員会。会合を重ねること、1年と2か月で16回を数えた。7月2日の設立総会に向けて熱い討議を続け、自信が不安をはね飛ばしていった!



打ち合わせに没頭する準備委員の面々。

不安から自信へ!

99年4月の繁忙期、ある日突然、学会会から昭和49年同期会結成の案内が送られてきた。中央大学の看板を背負って社会に出て四半世紀が経った今、果たしてこのポランティアともいえる同期会作りに何人が賛同してくれるのだろうか。当然ながら大学に残った私には、何らかのお鉢が回ってくる事は覚悟はしていた。

4月27日、第1回準備会。我々大職員3名を含め7名が出席した。当日までの準備会委員は職員6名を含めて11名。一瞬不安が過った。学会会事務局局長から同期会の趣旨等の説明を聞き、自己紹介をし、次回の日程を決めた。場所を居酒屋に移し、今までの重苦しい雰囲気徐徐に和やかに、今後、準備会委員を増やす事を約して別れた。

第2回準備会は、会の代表と役割分担がメインであった。頭を垂れた静肅の中、山崎厚太さんが代表に名乗りを上げ、即座に決定。この瞬間

から49年卒業生同期会結成に向け動き始めた。

活動の最大の目標を会員を増やす事に置き、その第1目標を10月24日の「ホームカミングデー」とした。準備会委員は当初より数名しか増えなかったが、出席率は良くなってきた。「ホームカミングデー」で最低100人を見込んだ。結果は132名。我々は大いに盛り上がった。これで2000年6月の設立総会に向けて弾みがついた。

12月の忘年会で懇親を深め、1月東京近郊在住の2800名へ同期会加入の案内を発送した。大変な労力を要したが、結果は会員数2300名、準備会委員47名。いよいよ総会の準備に入った。

設立総会日が7月2日、会の正式名称も「49年白門会」と決定し、4月の「観桜会」で初めて名乗りを上げた。会則・役員・設立総会・パティーの役割等々、順調に決まっ

た。僕もあの頃はあんな風に輝いていたに違いないと思います。最近、通勤の地下鉄の中で、窓に映る自分の目の輝きの無さにドキッとしたことが度々あります。

中大を卒業して26年。総会の帰り道、学生時代4年間通った御茶ノ水橋から見た風景は26年前と変わっていませんでした。右にJR、左に丸の内線の御茶ノ水駅、真ん中に神田

会費の納入についてのお願い

中央大学49年白門会会計担当

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

①郵便振替 (手数料は不要です)

振替口座番号 「00180-3-196081」

口座名称 「49年白門会」

②銀行振込 (振込手数料が必要ですが)

銀行名 東京三菱銀行日野市役所支店 普通預金 「0569115」

口座名 「白門49会 (ハクモンヨンキュウカイ)」

(注) 銀行口座は会の正式名称が決定する前の仮受口座として開設したため、口座名義が正式会名と異なりますので、注意してください。

49年白門会連絡先

住所・勤務先変更、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。

49年白門会副会長 宮川 保
中央大学学会事務局 電話 03-3219-6175
FAX 03-3219-6177

事業部より

増田 勝美

7月2日、緊張の総会だったが、出席者60名の盛大な拍手で「49年白門会」は産声をあげたのである。これが大変と思われるが、設立にかかわった者全員が自信を得た瞬間だった。(中島 章大)

川を横切る赤い丸の内線の電車が走る鉄橋、周りの建物や通り過ぎる人はすっかり変わっていましたが、26年前の夢は何でしたか? 消えそうになった夢はまた書き直せばいいし、新たな夢を持つのも良いものです。設立を機会に時代を共有した同期生と語り合い、応援しあいたいものです。30年前の青春の輝きを胸に常に抱きつつ…。(天竹 力二)

編集 後記

輝きを失わずに...

4月の観桜会で初めて多摩校舎に行きました。新人生のガイダンスの時期で、クラブの勧誘の看板がたくさんありました。通り過ぎる学生はデイバッグ姿で、携帯電話を掛けながら、カプセルで歩いてたりで、30年前のヘルメットにアジ演説、檄文の立て看板等、どこを探してもありませんでした。

学生達はキラキラと輝いていまし

午前零時、風呂あがりにTVのスイッチを入れるとK君がニュースを担当していた。遅くまで仕事で大変だろうという感情を持った。普段はニュースに関心を持ってアナウンスには関心を持たない。出合いがK君への関心の濃淡に影響した。明るい彼は、49年会におけるそれぞれの出合いを楽しく豊かにしてくれるものと思う。K君を引き合いに出したが、会員の出合いが互いに心豊かなものとなるよう事業部ではその機会の設定に腐心したい。そのため提案を皆様にもお願いいたします。まずは、秋の「ホームカミングデー」をどう楽しむか。ここから始めたい。